

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：34501

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2016～2020

課題番号：16H05689

研究課題名（和文）先住民の植民地経験の語りの両義性—謝罪と和解をめぐる文化人類学的・学際的研究

研究課題名（英文）Ambiguity of Indigenous Discourses on Colonial Experiences- Anthropological and Interdisciplinary Study on Apology and Reconciliation

研究代表者

窪田 幸子（Kubota, Sachiko）

芦屋大学・臨床教育学部・教授

研究者番号：80268507

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、先住民の植民地経験と暴力、そして、それに対する主流社会による謝罪と和解という問題を、先住民による「語り」から考察することを目的として展開した。調査対象地のオーストラリアのアーネムランドで、特に70代の女性たちに集中的に歴史経験の聞き取りを行い、ライフヒストリーを記録した。1940年代に建設されたキリスト教ミッションの歴史経験、ミッションによる植民の経験などの語りと神話が交互に現れる、興味深い語り記録できた。このようなデータをもとに、記憶、歴史、和解のテーマについて、研究協力者、現地研究者との研究集會も重ね、議論を展開させてきた。成果の一部はすでに学会発表、論文の形で発表している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

オーストラリアをはじめとする多くの国では現在、先住民との関係性の正常化が大きな社会問題となっており、少数者たちの記憶や歴史語りが表明され、注目され、和解、謝罪、返還、補償などが世界に共通するキーワードとなっている。そのような中であって、先住民の語りから、どのように記憶が読み取れることが可能で、そのうえで和解には、何が必要かを考える本研究は、現代社会の重要な問題に貢献するものであることは間違いない。また、学術的にも人文社会科学においても大きな議論を呼んでいる歴史と記憶の問題に、ミクロなデータから切り込むことができていると自負している。

研究成果の概要（英文）：This project is aimed to analyze the discourses on colonial experiences of indigenous people. From this, we tried to discuss the theme concerning the apology and reconciliation being initiated by the mainstream society. I interviewed a several related women in their seventies who experienced Christian mission days which started in 1940s in Arnhem Land, north Australia. I recorded their discourse of historical colonial experiences, affinity feelings to the missionaries, and their personal histories (similar to mythology). And they often cross-cuts each other. Based upon these very unique discourses, we had a several sessions with overseas collaborative members as well as local scholars in Australia and developed our discussions on ‘Memory, History and Reconciliation’. Some of these research results have already been published or presented at the conferences.

研究分野：文化人類学

キーワード：先住民 アボリジニ 記憶 歴史 植民地経験 和解 謝罪 両義性

1. 研究開始当初の背景

調査対象地であるオーストラリアでは、1700年代末から入植がはじまり各地で先住民であるアボリジニとの暴力的な接触があり、先住民文化は大きな打撃を受けた。オーストラリアでは、1970年代から先住民の権利や状況の改善の試みが始まり、1990年からは和解に向けての議論が進んでいる。先住民に向けての謝罪も繰り返されている。調査地である大陸北部では20世紀半ばから白人との接触が始まり、植民地統治が経験された。

「語り」は、和解の文脈でしばしば癒しのツールとして使われ、注目されている。和解に向けて、先住民の歴史的経験やトラウマの語りが主体的に表出され、それを受け止める動きは各地で見られる。確かに「語り」は、具体的で多様な個別の経験を強く伝える。しかし、一方で先住民の「語り」は、語られることによりステレオタイプ化して固定化、本質化するという様相をみせる。本研究は、こうした「語り」の二面性に注目した。調査地では、植民地経験やキリスト教ミッションの経験をどのように語るのか。それを聞き取り、記憶と歴史という学術的問題に取りくむ。

2. 研究の目的

本研究は、先住民の植民地経験と暴力、そして、それに対する主流社会による謝罪と和解という問題を、先住民による植民地経験やミッションの経験についての「語り」から考察することを目的として展開した。歴史経験の語りを持つ力、個々の先住民の人々にとっての意味、それにまつわる問題性を明らかにしようとした。少数者の歴史経験の語りは、時に二重性を持ち、揺らぎがみられる。研究代表者が調査対象とするオーストラリアの調査地では、20世紀半ばから植民地統治が経験された。この時代を記憶している人々が老齢化する中で、特に女性たちの歴史的経験を改めて聞き取り、その両義性に注目する。

3. 研究の方法

研究代表者のこれまでの研究蓄積の結果、調査地であるアーネムランドの人々との間にはしっかりと信頼関係が構築されていた。70代の女性たちは、特に、研究代表者を1980年代後半に受け入れ、家族の一員として多様な知識を伝授してきてくれた人々である。彼女らは、1940年代に始まったキリスト教ミッションで生まれ、その成長の中で、ミッションの生活を経験してきた人々である。改めて、彼女らの植民地経験を集中的に聞き取り、ミッションでの生活を聞き取り、彼女らのライフヒストリーを構築した。中心的に対象とした70代女性は4名であるが、その他の同世代の女性たちにも、補足的に話を聞き、最終年度には、その子供世代の経験も聞き取った。

初年度(2016)に、アーネムランドの調査地での長期住み込み調査をおこない、N氏のライフヒストリーの語りの骨格を完成させた。また、N氏の家族、その他ミッションを経験した人からも個別に話を蒐集した。フィールド調査の後には、キャンベラの先住民研究所において、先住民との和解、謝罪にかかわる資料調査を行うとともに、ミッション側の記録の歴史的な裏付けも確認し、N氏の語りの背景が明確にした。またオーストラリア国立大学において研究会を開き、本研究計画の全体と、本年度の聞き取り内容を中心に発表し、広くアボリジニを専門とする研究者のコメントを受けた。国内では、調査結果を踏まえて、2回の研究集会を開催した。

2年度(2017)にも長期調査を行ない、ライフヒストリーの聞き取りを継続、さらに深めた。N氏以外のG氏、B氏、D氏の話も聞き取った。B,Dの両氏はN氏の姉妹に当たり、G氏は彼らの母にあたる。4名の女性の話が互いに関係し、共鳴していることがわかってき、この4人を中心としてさらにライフヒストリーの聞き取りを進めた。調査後、シドニーにて研究協力者との研究打ち合わせを行い、これに基づき研究発表を行った。

3年度(2018)は、研究代表者の事情により、長期調査が行えず、短期の滞在でフォローアップを行った。語りの特徴は明らかになってきており、学術的に検討すべき論点が明確になってきた。これまでの成果を中間的にとりまとめ、国内集会を開催した。その成果は論文として発表予定である。D氏、B氏が突然亡くなったとの連絡を受けた。

4年度(2019)には、ニュージーランドでの比較調査を行った。その後、1オーストラリアでの現地調査を行った。アーネムランドの調査地では、ライフヒストリーの聞き取り範囲を広げ、より若い世代を含めてライフヒストリーと、神話についての話を聞いた。調査後、シドニーで研究協力者との研究打ち合わせを行った。この年にメインのN氏が死亡した。

一方で、来年度に予定している国際集会の相談をした。国際研究集会のための準備も開始した。カナダで開催されたアメリカ人類学会、インドで開催された人文学ワークショップなどの国際会議で、トラウマの語りについての研究発表を行い、これまでの成果を論文として出版した。

最終年度(2020)は、パンデミックのため海外渡航が不可能となり、データ整理とオンラインでの研究打ち合わせに終始した。現地還元の資料整理はすすめることができた。特別事情により、研究費の繰り越しを認めていただいた。

最終年度(2021) 死亡した3名の女性インフォーマントの子供世代に聞き取りを行った。死亡した姉妹への聞き取りはすでに終えており、同世代の親類の女性たちにも聞き取りを行い、その語りを重ねて整理した。そこにさらに子供世代の語りを重ねたことより、家族の歴史語りとして、まとめることができた。国際研究集会は、コロナの影響が続く中で、研究協力者の来日が難しく断念せざるえなかった。研究協力者とオンラインでの研究集会を複数回繰り替えし、これに基づき論文を提出してもらっており。これらの議論と論文をまとめたものを2023年度に出版予定で現在作業中である。一方で、国内の歴史学研究者や国際政治学者と、紛争や国家的暴力の歴史記憶をめぐる議論を重ね、新たな研究の展開の見通しも立っている。先住民であるアボリジニの立場からの歴史的経験についての成果は、調査地への還元とする予定であり、作業中である。

4. 研究成果

アボリジニ女性たちの植民地、ミッションの経験についての語り、記憶は、家族、親族についての出来事、ミッションの建設、ミッションでの出来事、がまざる。そしてそこに、クランの聖地の語りがしばしばより合わされる、大変に興味深いものであることがわかった。対象とした被調査者たちの世代は、まさにアーネムランドにキリスト教ミッションが入り、町が建設されてゆく時代を経験し、キリスト教ミッションのスタッフに教育を受けて、大人になった人々であった。ミッションの建設に至る経緯も、親からの話として記憶していた。各人の間のずれと重なりも興味深いものだった。そして、N、D、B氏はいずれも学校教員として働いていた経験を持つ。そのような彼女らにとってのミッションの記憶は、常に大変好ましいものとして語られる。その一方で、現在の社会的状況の中での歴史や白人への批判もしばしば顔をのぞかせた。このように記憶の語りは時に揺らぎ、変化する。ガリウインク・

ミッションの経験と、家族関係、そして神話的つながりが交差するような大変興味深い語り
が聞かれたのである。

メインの対象とした、B、D、N、G 氏という4名の女性の話は、互いに関係し、共鳴し
あっていることがわかってきた。語りは、歴史を肯定的にとらえているものが圧倒的であり、
同時に独自の歴史語りのあり方が明らかになってきた。彼らの歴史は、個人の人生の中に納
まらず、祖先、そして神話へとつながる独自のものである。その一方で、現代的な問題とも
重なり、そこでは他者である白人に対するステレオタイプな批判的語りも見え隠れする。
また、

この研究を行う中で、国内の歴史学研究者や国際政治学者と、紛争の歴史記憶をめぐる議
論を行い、多くの問題意識の重なりがあることがわかってきた。さらに国際学会などでの意
見交換から、共通の問題意識と、和解の問題につながる論点が見えてきた。このような学際
的視点からもヒントを得て、語りの多様性と均質性という当初の問題意識にかかわっての
議論をまとめた。また、先住民であるアボリジニの立場からの歴史的経験を、まとめる作業
を開始し、継続中である。アボリジニの立場からの歴史語りからは、独自の語り方、独
自な記憶の表現のしかたがある。アボリジニの人々の家族史として重要な意味を持つもの
であることが納得された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 窪田幸子	4. 巻 2
2. 論文標題 ナショナルな歴史経験とトラウマ 先住民への謝罪と和解	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『トラウマ研究 トラウマを共有する』田中雅一・松嶋健編、京都大学出版会	6. 最初と最後の頁 195-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubota, Sachiko	4. 巻 -
2. 論文標題 'Conflict and Peacebuilding rituals in North Australia - Traditional and contemporary contexts'	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 In Tsukimura, T. ed. "Conflicts and Peacebuilding: Toward the Sustainable Society", Dosisha University GRM Program	6. 最初と最後の頁 83-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubota, Sachiko	4. 巻 -
2. 論文標題 'Transmission of Knowledge, Clans, and Lands among the Yolngu (Northern Territory, Australia)'	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Francoise Dussart, Sylvie Poirier eds. "'Entangled Territorialities: Negotiating Indigenous Lands in Australia and Canada'" University of Toronto Press.	6. 最初と最後の頁 163-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sachiko Kubota	4. 巻 1
2. 論文標題 Innovation of Paintings and Its Transmission: Case Studies from Aboriginal Art in Australia	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Social Learning and Innovation in Contemporary Hunter-Gatherers Evolutionary and Ethnographic Perspective, Springer	6. 最初と最後の頁 229-234
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sachiko Kubota	4. 巻 1
2. 論文標題 Conflict and Peacebuilding rituals in North Australia - Traditional and contemporary contexts	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Conflicts and Peacebuilding: Toward the Sustainable Society, Doshisha University	6. 最初と最後の頁 83-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sachiko Kubota	4. 巻 Vol. 23, No. 1
2. 論文標題 For a Better Future for the JASCA	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japanese Review of Cultural Anthropology	6. 最初と最後の頁 206-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 13件)

1. 発表者名 窪田幸子
2. 発表標題 和解という道筋の可能性
3. 学会等名 科学研究費補助金研究紛争研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachiko Kubota
2. 発表標題 Repatriation of Ainu human remains
3. 学会等名 Kwansei Gakuin Workshop on Reconciliation (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachiko Kubota
2. 発表標題 Ainu, the Japanese Indigenous peoples- its history and changes
3. 学会等名 Anthropology Seminar, Waikato University, Hamilton, New Zealand (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 窪田幸子
2. 発表標題 先住民研究とオーストラリア グローバルな視座と地域
3. 学会等名 学術会議地域研究委員会地域基盤分科会 公開シンポジウム「危機を超えて 地域研究からの価値の創造」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachiko Kubota
2. 発表標題 Changes in the repatriation; Australia and Japan comparatively
3. 学会等名 Amerian Anthoroplogical Association conference /CASCA (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sachiko Kubota
2. 発表標題 Changes in the repatriation; Issues concerning Ainu people, Japan, and involvement of academics
3. 学会等名 ICAS:MP Workshop 'New Roles of professional historians in politics and new forms of public use of history' (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sachiko Kubota
2. 発表標題 'Different relationships- Indigenous people and the museum in Japan and Australia'
3. 学会等名 Art, Materiality and Representation BRITISH MUSEUM/SOAS (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sachiko Kubota
2. 発表標題 Aboriginal Arts: its transit and transition
3. 学会等名 International Union of Anthropological Ethnological Sciences, Brazil (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sachiko Kubota
2. 発表標題 Aboriginal Alternative Tourism in Arnhem Land -Tourism as Cultural Learning
3. 学会等名 Conference on Hunting and Gathering Societies, Malaysia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 窪田幸子
2. 発表標題 「少数者を表象から考えるということ」
3. 学会等名 日本文化人類学会 第51回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kubota, Sachiko
2. 発表標題 Representations and Acceptance of Australian Aboriginal Arts in Japan
3. 学会等名 East Asian Anthropological Association, Hong Kong Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 窪田幸子
2. 発表標題 国家的暴力と和解オーストラリアとカナダの事例から
3. 学会等名 紛争科学研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kubota, Sachiko
2. 発表標題 Aboriginal arts and changes of their acceptance in different 'states'
3. 学会等名 Australian Anthropological Society Annual meeting 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 窪田幸子
2. 発表標題 「'クラフト' から 'アート' へ?—アボリジニ女性の編組品とその変化」
3. 学会等名 布科学研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sachiko Kubota
2. 発表標題 Museums and Indigenous people:Case studies from local and mainstream museums in Australia
3. 学会等名 IUAES Inter Congress, 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sachiko Kubota
2. 発表標題 Museum and Indigenous people in National/Global context - Comparative perspective from Australia and Japan
3. 学会等名 2016 International Conference on the Culture of Jeju Haenyeo (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sachiko Kubota
2. 発表標題 Conflict and Peacebuilding rituals in North Australia - Traditional and contemporary contexts
3. 学会等名 GRM International Conference 2016 Conflicts and Peacebuilding: Toward the Sustainable Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sachiko Kubota
2. 発表標題 Why Japanese Museum Goers appreciate Australian Indigenous paintings
3. 学会等名 Australian Anthropological Society Annual meeting 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 窪田幸子
2. 発表標題 アボリジニアートのメッセージー歴史と世界観のゆたかさー
3. 学会等名 ワンロード展（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 窪田幸子
2. 発表標題 美術の展開と女性 - オーストラリアの先住民、アボリジニの世界から
3. 学会等名 府中女性センター登録団体連絡会交流会（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 窪田幸子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学出版会	5. 総ページ数 589
3. 書名 「ナショナルな歴史経験とトラウマ - 先住民への謝罪と和解」195-218、田中 雅一・松嶋 健編『トラウマ研究 - トラウマを共有する』	

1. 著者名 Sachiko Kubota	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 305
3. 書名 Crafts to Arts? - A Trajectory of Aboriginal Women's Weavings in Arnhem Land, Australia., 177-191, In Nakatani, Ayami ed. "Fashionable Traditions; Asian Handmade Textiles in Motion"	

1. 著者名 窪田幸子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 176
3. 書名 「和解という道筋の可能性を考える」77 - 104、月村太郎編『部族紛争後状況の多元的研究』	

1. 著者名 Francoise Dussart , Sylvie Poirier, Sachiko Kubota et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 University of Toronto Press	5. 総ページ数 269
3. 書名 ''Entangled Territorialities: Negotiating Indigenous Lands in Australia and Canada''	

1. 著者名 窪田幸子監修・著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 現代企画者	5. 総ページ数 151
3. 書名 ワンロード - 現代アボリジニ・アートの世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

オーストラリア	Australian National University	University of Western Sydney	Institute of Aboriginal Studies	
---------	--------------------------------	------------------------------	---------------------------------	--